

県内中高生 100万円寄付

小児がん支援、山形大医学部へ

県内中高生らが中心となり、レモネードの販売収益を活用して小児がん患者への支援を呼びかけるグループ「山形メーカーレモネードプロジェクト」は13日、が

んの研究費などとして山形大医学部に100万円を寄付した。付属病院に通う患者や、治療に付き添う父母の負担を軽減しようと、待ち時間に食べてもらう食品、おもちゃなど計約100万円分も合わせて贈った。

プロジェクトは、県青年の家（天童市）を拠点とするボランティアサークル「nico こえ」が展開し2年目となる。本年度は同サークルをはじめ、活動

の趣旨に賛同する県内各地の計100団体・個人が学祭や地域の催しなどでレモネード販売を繰り広げた。

22団体から寄せられた善意を含め、集まった支援金は計198万8419円。

このうち半分ほどを活用し、天童市内の事業所・団体の協力を得て、レトルト食品やパックご飯、病院内のコーヒーマシンで使えるチケット、病棟のプレイルームに置くままごとのおもちゃなどを購入した。

山形市の同大飯田キャンパスで贈呈式が行われ、プロジェクトリーダーで、自身も小学3年の頃に小児がんを患った平田寧々さん

小児がん患者のための支援金を贈った平田寧々さん（中央）ら「山形メーカーレモネードプロジェクト」のメンバー

山形市



(19) 県立保健医療大1年Ⅱが医学部の三井哲夫教授（小児科学講座）に目録を手渡した。平田さんは「病」と闘う子どもと家族が、少しでも楽になればいい。来年度も活動を継続し、支援の輪を広げたい」と話した。（吉村瑛人）